

■絵双六の始まりについて

～文明6年（1474）8月8日「宮御方（宮中）で浄土双六を遊ばれた」

との記述が日本最古の絵双六の記録～

文責：築地双六館館長 吉田修

我国最初の歴史書である「日本書紀」には、持統天皇時代の689年に「禁断双六」と記述されています。禁裏向けか一般民衆向けかは定かではありませんが、賭博性のあった双六の禁止の布れが発せられていたことがわかります。ここでいう双六とは、木製の盤双六でバックギャモンのようなルールでした。現存する最古の双六は、朝鮮から渡来した「木面紫檀双六局（もくがしたんすごろくきょく）」で、正倉院北倉の御物として所蔵されています。

一方、紙の絵双六の最初のもは、天台宗の新米の僧に仏法の名目を遊びながら学ばせるために考案された墨版の仏法双六だと思われます。墨版で、絵は描かれていません。この仏法双六は、13世紀後半頃から用いられたのではないかとされていますが、現存するものはありません。

筆者は、長年、賭博性のない、純粋な紙の絵双六の起源を探し求めていましたが、今般、下記論文を拝読することができました。

・論文：「浄土双六考」1995年

・著者： 岩城紀子

絵双六で近代日本を読み解く元江戸博学芸員。2024年に個人事業主・さかいわき開業。

：URL: <https://edo-tokyo-museum.repo.nii.ac.jp/records/2000225>

上記論文も踏まえ、絵双六の起源について以下を述べたいと思います。

1. 絵双六（浄土双六）の存在について記載されている信頼できる資料は以下のものがある。

■言国卿記（ときくにきょうき）

・文明6年（1474）8月8日：「宮御方（宮中）で浄土双六を遊ばれた」との記述あり。（資料①）

→日本最古の絵双六の記録である。

・文明6年（1474）8月12日（上記と同日）：「浄土双六のさいころに名号を彫らせた」との記述あり。（資料②）

■実隆公記（さねたかきこうき）

文明6年（1474）8月12日：「後土御門天皇の命により「浄土双六」を写して進上した」との記述あり。（資料③）

■御湯殿上日記（おゆどののうえのにつき）

文明10年＝1478年頃）2月16日：「浄土双六遊ばず」旨の記述あり。（岩城論文に詳述あり）

今般、出典元である「実隆公記」と「言国卿記」の当該頁を確認したので、別紙資料にて紹介する。

2. 後土御門天皇は、応仁の乱の最中、京都が荒廃するなかで極度の財政難に陥るも、朝廷権威を維持し、宮中文化の復興に努めた。とりわけ、宮中祭祀・神祇儀礼を重視し、天台・真言両宗の僧を通じて加持

祈祷を実施するなど、浄土教的活動（念仏供養、阿弥陀信仰）に親しんできた。このような時代背景のなかで、「浄土双六」に関心を持ち、三条西実隆（さんじょうにし さねたか）や山科言国（やましなときくに）に浄土双六や 賽（さいころ）を用意させている。室町時代の中期には、既に宮中で浄土双六が信仰心を持って遊ばれていたことがわかる。

3. 当時の浄土双六がどのようなものかは不明であるが、図像として近いものとして、「縮圖再鐫 佛法雙六 證果増進之圖」（しゅくずさいせん ぶっぼうすごろく しょうかぞうしんのず）を挙げておきたい。（資料④） ※詳細は築地双六館の双六データベース：<http://www.sugoroku.net/> の解説を参照のこと。

以上